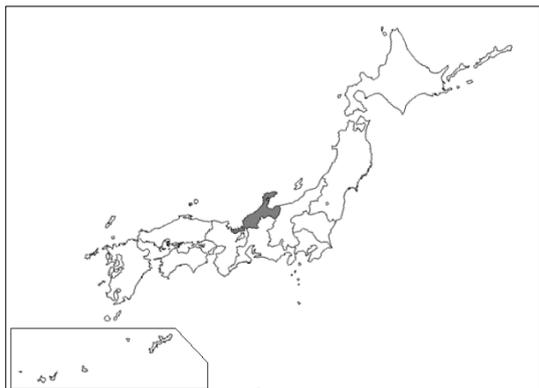


(7) 北 陸



北陸地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばい。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

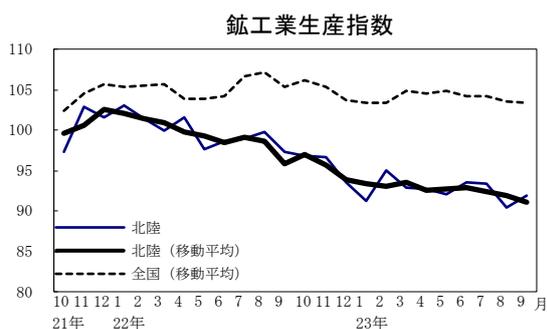
前回からの主要変更点

なし

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産はおおむね横ばい。

7－9月期の鉱工業生産は、前期比 1.0%減となった。月別にみると、7月は生産用機械が減少したこと等により前月比 0.1%減、8月は電子部品・デバイスが減少したこと等により同 3.2%減、9月は電子部品・デバイスが増加したこと等により同 1.7%増となった。



(備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。
北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4－6 月期	7－9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	15.3	4.1	▲2.0	4.4	▲12.0	6.1
化学	14.0	10.7	▲1.3	4.5	▲7.8	3.1
生産用機械	11.8	▲16.4	▲1.7	▲4.1	▲1.0	▲1.6
金属製品	8.1	▲3.9	▲5.4	▲4.2	3.6	▲5.2
繊維	6.9	2.3	▲1.6	▲2.3	▲0.5	▲3.7
鉱工業	100.0	▲0.3	▲1.0	▲0.1	▲3.2	1.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7－9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

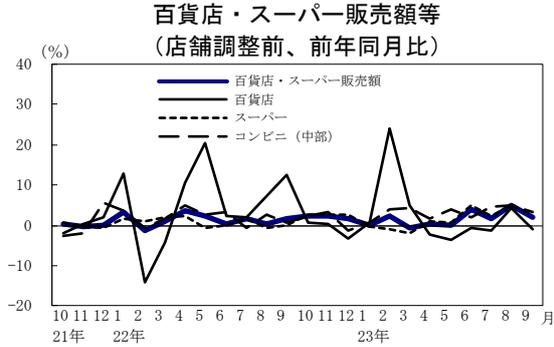
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

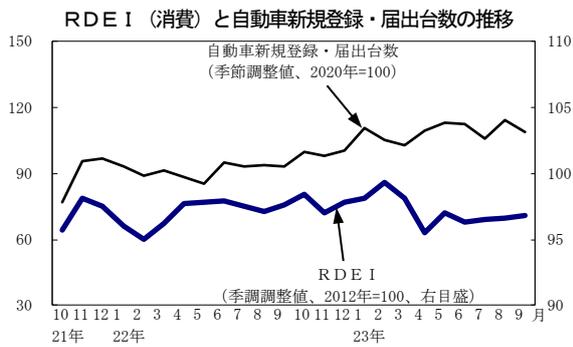
7-9月期は前期比0.4%増となった。月別にみると、7月は前月比0.2%増、8月は同0.1%増、9月は同0.1%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7-9月期は前年同期比2.9%増となった。月別にみると、7月は前年同月比1.7%増、8月は同5.0%増、9月は同2.0%増となった。



	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.4	0.2	0.1	0.1
百貨店・スーパー(*2)	2.9	1.7	5.0	2.0
百貨店(*2)	0.6	▲1.2	4.4	▲1.0
スーパー(*2)	3.3	2.2	5.0	2.5
コンビニ(*2)	4.3	4.6	5.0	3.4
乗用車(*3)	15.4	12.9	20.3	14.1
(季節調整値)(*3)	▲1.9	▲6.1	8.1	▲4.8

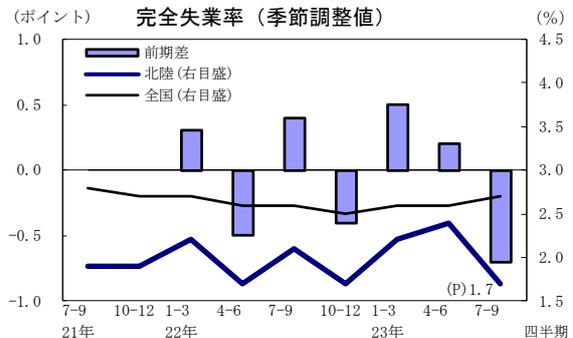
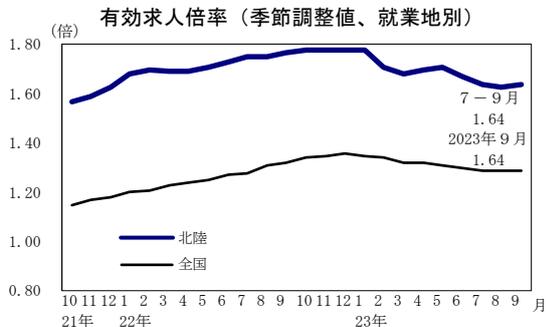


- (備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
 コンビニは、経済産業省の中部 (富山、石川、岐阜、愛知、三重) の値。
 3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある (P10 参照)。一般労働者の定期給与は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を下回っている。



- (備考) 1. 内閣府にて季節調整。
 2. 7-9月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

7. 北陸

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・住宅の販売価格が高止まりしており、見積金額が予想を超えたため、改めて修正設計する案件が多くなっている。業務量の割に成約数は増えない状況が続いている（住宅販売会社）。
		○	・インバウンドや観光需要が拡大している。また、秋の行楽シーズンで、地元客の外出が活発化している（一般レストラン）。
		▲	・物価高の影響からか客が購入する商品を絞っているため、買上点数は減少している。その一方で、野菜の仕入価格高騰により、産地直送コーナーで出している青果物の売上は伸びている（スーパー）。
	企業 動向 関連	□	・観光関係は好調を維持している。小売はやや厳しい状況が続いている（金融業）。
		▲	・施工業者不足が慢性化している（プラスチック製品製造業）。
		○	・どの業種もおおむね売上は上がっており、従業員へのベースアップなども着手できている。ただし、原材料価格の高騰により、利益の確保が難しくなっている（税理士）。
雇用 関連	□	・2025年度の新卒採用活動に向けた広報や合同企業説明会の企画を各社に案内する時期となったが、現状で参加意思を示している企業は例年並みといった印象を受ける。中途採用に対応した求人広告も横ばいの状況が続いており、悪くはないものの売手市場を受けた伸びに頭打ちの感がある（新聞社 [求人広告]）。	
	▲	・派遣先企業からの依頼数が大きく減ったということはないが、減少傾向が明確になっている（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント			□：値上げによる消費動向の変化からか、高単価商材の販売量が伸び悩み、ふだん使いできる低単価商材の数量が伸びる傾向が顕著である（スーパー）。 □：物量に多少の変動はあるものの、平均すると余り変わっていない（輸送業）。
先行き	家計 動向 関連	□	・全体の来客数の動きは微増にとどまり、消費はやや鈍くなっていることから、現状維持になるとみている（テーマパーク）。
		▲	・主要商材の客単価が前年よりも低い。節電節水等の提案をしても想定予算内での購入が多く、物価上昇により現在の出費を極力抑えたいと考えている客が多い（家電量販店）。
	企業 動向 関連	□	・中国の日本産水産物輸入禁止問題は強烈的な向かい風だが、国内向け販売はいずれのチャネルも引き続き好調を維持できる見通しである（食料品製造業）。
		○	・飲食や宿泊などの観光関連は、引き続き国内観光客やインバウンドの増加に加え、年末に向けての会食需要などから改善傾向が続くものとみている（金融業）。
	雇用 関連	□	・物価上昇等の不安要素はあるものの、新規求人数は底堅い状況である（職業安定所）。
その他の特徴 コメント			○：年末から新年に向け、新たな人材案件が発生すると考えられ、それに伴って求職者の就労が増加し、多少上向きになるとみている（人材派遣会社）。 □：来年3月の北陸新幹線延伸に向けて、街づくりや新店舗など多くの企画が進んでいる（司法書士）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北陸）の推移（季節調整値）

